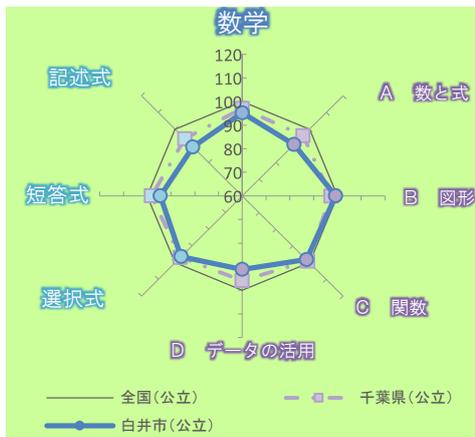


＜中学校数学＞



数学

正答率は、全国の正答率を下回っている。領域別にみると、「図形」「関数」の問題において、高い正答率を示している。

数と式

◇問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
 ◆目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
 ◆統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

図形

◇回転移動について理解している。
 ◆筋道を立てて考え、証明することに課題がある。
 ◆事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことに課題がある。

関数

◇二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。
 ◇グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。
 ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

データの活用

◇与えられたデータから最頻値を求めることができる。
 ◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

授業改善のポイント

◇→概ね身につけている。
 ◆→課題がある。

- 数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに問題の条件を変えるなどして、総合的・発展的に考察できるように指導する。
- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象の中にある関数関係を見だし、数学的に表現・処理して問題を解決し、得られた結果の意味を考察できるよう指導する。
- 表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められるが、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるよう指導する。